

独立した第三者保証報告書

コスモエネルギーホールディングス株式会社
代表取締役社長 社長執行役員 山田 茂 殿

ソコテック・サーティフィケーション・ジャパン株式会社(以下、「SOCOTEC」という。)は、コスモエネルギーホールディングス株式会社(以下、「会社」という。)からの委託に基づき、会社が作成した主題情報(“E S Gデータ”(期間:2022年4月1日~2023年3月31日))がすべての重要な点において規準に適合しているかについて限定的保証業務を実施した。

1 主題情報と規準

保証対象となる主題情報は、“E S Gデータ”(期間:2022年4月1日~2023年3月31日)に記載された会社と会社の連結会社(コスモ石油株式会社、コスモ石油マーケティング株式会社、コスモエネルギー開発株式会社のほか、子会社、関連会社43社)における日本及び海外の運営及び活動を対象範囲とする、“温室効果ガス排出量(Scope1,2,3(カテゴリ:1,4,11))、水使用量関連データ、大気汚染物質排出量、廃棄物発生量、社会・安全関連データ(別紙)に関する報告”である。

主題情報を作成する規準は“GHG 排出量算定手順_Ver1”である。

2 経営者の責任

“E S Gデータ”(期間:2022年4月1日~2023年3月31日)は、会社の経営者によって作成された。

会社の経営者は、そこで行われている主張、陳述及び主張の完全性(限定的保証を提供するために従事してきた主張を含む)、報告書内の全てのデータ及び情報の収集、定量化及び提示ならびに適用した規準、分析及び公表に責任がある。

会社の経営者は、報告プロセスをサポートし、故意または過失によるものであるかどうかにかかわらず、“E S Gデータ”(期間:2022年4月1日~2023年3月31日)に重大な虚偽記載がないことを保証するように設計された適切な記録及び内部統制を維持する責任がある。

3 保証会社の責任

SOCOTEC の責任は、主題情報がすべての重要な点において規準に準拠して作成されているかどうかについて、限定的保証の結論を表明することにある。

SOCOTEC は、SOCOTEC の定める検証手順及び「ISO14064-3 温室効果ガスに関する主張の妥当性確認及び検証のための仕様並びに手引」並びに国際監査・保証基準審議会(IAASB)の国際保証業務基準(ISAE)3000(改訂)「過去財務情報の監査又はレビュー以外の保証業務」に準拠し、限定的保証業務を実施した。

限定的保証業務で実施する手続は、合理的保証業務で実施する手続と比べて、その種類、時期、範囲において限定されている。その結果、SOCOTEC が行った限定的保証業務は、合理的保証業務ほどには高い水準の保証を与えるものではない。

SOCOTEC が実施した手続は、不正又は誤謬を問わず重要な虚偽表示のリスクの評価をはじめとして、職業的専門家としての判断に基づいている。SOCOTEC の結論は、会社の内部統制に対して保証を提供するものではない。

SOCOTEC は、限定的保証における結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

4 保証手続

SOCOTEC が実施した手続は、職業的専門家としての判断に基づいており、以下を含んでいるがそれらに限定されない。

- 会社が主題情報に関連して作成した方針や手続の評価
- 上記方針手続を理解するための会社担当者への質問
- 対象プロジェクトが適格性要件を満たしているかの確認
- 試算による根拠資料との照合、再計算
- 重要な仮定や他のデータに関する根拠資料の入手、照合
- 算定体制と手順の確認、データの収集及び記録管理の実施状況を確認するため、会社の本社、コスモ石油株式会社 四日市製油所、四日市霞パワー株式会社 四日市霞発電所、コスモ松山石油株式会社を視察した。

5 独立性と品質管理、力量の声明

SOCOTEC は、「ISO17021 適合性評価-マネジメントシステムの審査及び認証を行う機関に対する要求事項」の認定要求事項に適合する包括的なマネジメントシステムを導入し、維持している。又「ISO14065 温室効果ガス-認定又は他の承認形式で使用するための温室効果ガスに関する妥当性確認及び検証を行う機関に対する要求事項」に従ってマネジメントシステムを確立している。これらは国際監査・保証基準審議会による国際品質管理基準 1 と国際会計士倫理基準審議会による職業会計士の倫理規定における要求を満たすものであり、倫理規則、職業的専門家としての基準及び適用される法令及び規則の遵守に関する文書化した方針と手続を含む包括的な品質管理システムを維持している。

SOCOTECグループは、検査、試験、検証業務における総合的な第三者機関であり、世界の国々で品質、環境、労働及び情報セキュリティにかかわるマネジメントシステム認証業務やトレーニングサービスを実施しており、環境、社会情報のパフォーマンスデータ及びサステナビリティ報告書保証業務を行っている。SOCOTECは、本保証業務を依頼した組織やその関連会社、ステークホルダーからも独立しており、公平性を損なう可能性や利害の抵触がないことを断言する。

本保証業務に携わったチームは、知識や当該産業分野における経験、そして本保証業務に関する力量基準に基づき構成されていることを保証する。

6 報告書の利用

限定的保証業務におけるSOCOTECの責任は、合意した条件に基づいて、会社の経営者にのみ負うものである。従って、目的にかかわらずそれ以外のいかなる個人や組織に関しても責任を負わない。

7 結論

SOCOTECが実施した手続及び入手した証拠に基づいて、主題情報が規準に準拠して作成、開示されていないと信じさせる事項はすべての重要な点において認められなかった。

ソコテック・サーティフィケーション・ジャパン株式会社
執行役員社長 二場 誠吾



Seigo Futaba

2023年9月29日

温室効果ガス排出量(Scope1,2,3(カテゴリー:1,4,11))、水使用量関連データ、
大気汚染物質排出量、廃棄物発生量、社会・安全関連データ

表 1 Scope 別 GHG 排出量

項目		数量	単位
Scope1 (内訳)	合計	7,287	千 t-CO2
	CO2 排出量	7,262	千 t-CO2
	CO2 以外排出量	26	千 t-CO2
Scope2 (マーケット基準)	合計	243	千 t-CO2
Scope2 (ロケーション基準)	合計	285	千 t-CO2
Scope3 (内訳)	合計	53,018	千 t-CO2
	原油生産 ^{※1}	1,150	千 t-CO2
	輸送 ^{※2}	840	千 t-CO2
	製品の使用 ^{※3}	51,028	千 t-CO2

※1 カテゴリー1の主要項目

※2 カテゴリー4の主要項目

※3 カテゴリー11の主要項目

表 2 GHG 排出量関連の原単位(コスモ石油株式会社)

項目	数量	単位
製油所エネルギー消費原単位 ^{※4}	9.17	L-原油/kL
製油所エネルギー消費量	1,621	千 kL-原油
製油所 CO2 排出量原単位 ^{※5}	23.49	kg-CO2/kL
製油所 CO2 排出量	4,153	千 t-CO2
輸送部門エネルギー消費原単位:海上	8.17	L-原油/千 tキロ
輸送部門エネルギー消費原単位:陸上	35.60	L-原油/千 tキロ
輸送部門 CO2 排出量	171,351	t-CO2

※4、※5 原油処理換算量あたり

表 3 エネルギー使用量

項目	数量	単位
エネルギー使用量(熱量換算値)	115,558	TJ
エネルギー使用量(原油換算値)	2,981	千 kL-原油

表 4 水資源:取水量・排水量

項目		数量	単位
石油 取水計	工業用水	41,243	千 t
	海水	409,504	千 t
	井戸水	284	千 t
	上水道	165	千 t
	合計	451,196	千 t
石油 排水計	排水量	445,532	千 t
石油化学 取水計	工業用水	19,856	千 t
	海水	88,791	千 t
	井戸水	34	千 t
	上水道	20	千 t
	合計	108,702	千 t
石油化学 排水計	排水量	95,808	千 t
製品貯蔵 取水計	工業用水	335	千 t
	海水	0	千 t
	井戸水	61	千 t
	上水道	24	千 t
	合計	420	千 t
製品貯蔵 排水計	排水量	260	千 t
研究所 取水計	工業用水	0	千 t
	海水	0	千 t
	井戸水	97	千 t
	上水道	32	千 t
	合計	129	千 t
研究所 排水計	排水量	91	千 t

表 5 水質汚濁負荷量

項目		数量	単位
石油	COD	89.6	t
	窒素	44.6	t
	りん	0.9	t
石油化学	COD	61.5	t
	窒素	36.3	t
	りん	1.4	t
製品貯蔵	COD	1.8	t
	窒素	0.3	t
	りん	0.01	t

表 6 大気汚染排出量

項目		数量	単位
石油	SO _x	3,196	t
	NO _x	2,300	t
石油化学	SO _x	597	t
	NO _x	774	t

表 7 大気汚染排出、水質汚濁負荷に関する原単位

項目		数量	単位
製油所	SO _x 排出原単位 ^{※6}	17.9	g/kL
	SO _x 総量	3,161	t
	NO _x 排出原単位 ^{※7}	12.6	g/kL
	NO _x 総量	2,223	t
	COD 排出原単位 ^{※8}	0.51	g/kL
	COD 総量	90	t

※6、※7、※8 原油処理換算量あたり

表 8-1 廃棄物(事業別)

項目		数量	単位
石油	発生量	59,068	t
	再資源化量	17,837	t
	最終処分量	10	t
石油化学	発生量	89,197	t
	再資源化量	15,264	t
	最終処分量	183	t
製品貯蔵	発生量	1,171	t
	再資源化量	1,064	t
	最終処分量	3	t
研究所	発生量	144	t
	再資源化量	94	t
	最終処分量	2	t

表 8-2 廃棄物(会社別)

項目		数量	単位
コスモ石油グループ 計	発生量	59,569.9	t
	最終処分量	13.6	t
	最終処分率	0.02	%
コスモ石油ルブリカンツ	発生量	813.2	t
	最終処分量	2.2	t
	最終処分率	0.27	%
コスモエンジニアリング	発生量	3,427.4	t
	最終処分量	0.0	t
	最終処分率	0.0	%

表 9 PRTR

項目		数量	単位
石油 計	排出量合計	94	t
	移動量合計	432	t
石油化学 計	排出量合計	255	t
	移動量合計	19	t
製品貯蔵 計	排出量合計	32	t
	移動量合計	2	t
研究所 計	排出量合計	0	t
	移動量合計	4	t

表 10 従業員^{※9}

項目		数量	単位
女性の管理職比率 ^{※10}		6.7	%
女性の採用比率	基幹職採用 ^{※11}	32.1	%
	学卒新卒採用 ^{※12}	60.0	%
障がい者の雇用	障がい者雇用率 ^{※13}	2.31	%
育児休業取得率	女性	100.0	%
	男性	55.8	%

※9 コスモ石油株式会社^が雇用元の社員^が対象

※10 2023 年 4 月 1 日時点

※11 2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日採用

※12 2023 年 4 月 1 日採用

※13 2023 年 6 月 1 日時点

表 11 男女間賃金格差※14

項目		数量	単位
男女間賃金格差	全体	76.0	%
	正規社員	75.5	%
	非正規社員	78.2	%

※14 コスモ石油株式会社が雇用元の社員が対象

表 12 労働災害※15

項目		数量	単位
業務上労災	休業労災	42	件
	不休業労災	74	件
通勤途上労災	休業労災	12	件
	不休業労災	18	件
合計	休業労災	54	件
	不休業労災	92	件
総合計		146	件
労働災害死者数	従業員	1	人
	協力会社社員	0	人

※15 コスモエネルギーグループ会社-41 社が対象